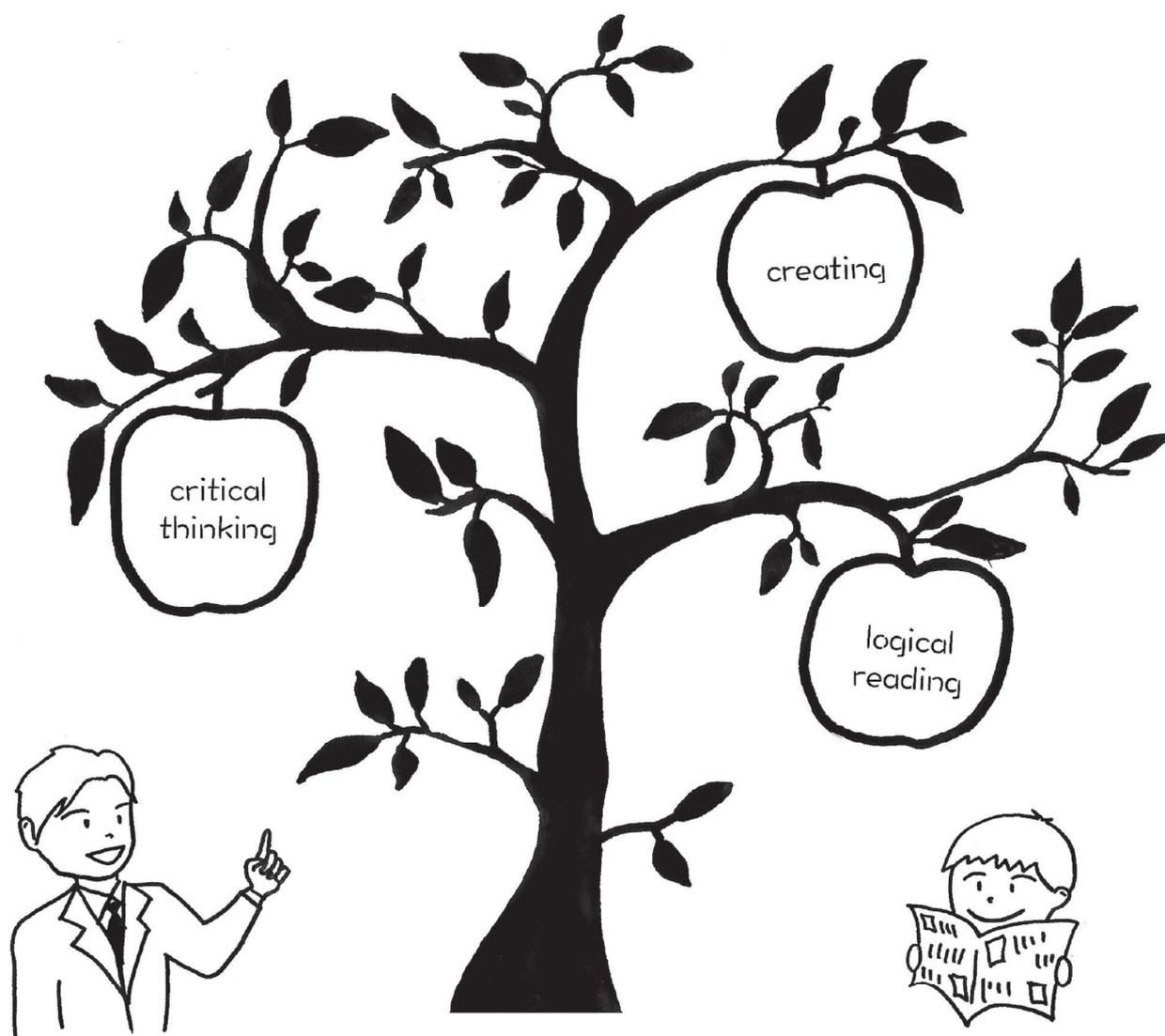


教育に新聞を

# NIE 実践報告書

2024 (令和 6) 年度



## 目 次

### 【あいさつ】 「NIE教育とは」自分なりに論じる

2024年度熊本県NIE推進協議会会長 長尾 浩 .....	1
--------------------------------	---

### 【実践報告】

熊本市立城北小学校 .....	2
菊池市立菊之池小学校 .....	5
南関町立南関第二小学校 .....	10
菊陽町立菊陽北小学校 .....	15
山都町立矢部小学校 .....	19
高森町立高森東学園義務教育学校 .....	25
熊本市立芳野中学校 .....	30
五木村立五木中学校 .....	37
菊池女子高等学校 .....	42

# 「NIE教育とは」自分なりに論じる

2024年度熊本県NIE推進協議会会長

(熊本県中学校長会会長・熊本市立京陵中学校校長)

長尾 浩



NIE (Newspaper in Education) 教育は、新聞を教育の現場で活用する取り組みであり、特に読解力や批判的思考力の向上を目的としています。以下にNIE教育の意義、方法、課題についてあらためて論じてみたいと思います。

## 1. 意義

〈情報リテラシーの向上〉現代社会は情報過多の時代です。NIE教育を通じて、子どもたちは情報の選別や評価の方法を学び、情報リテラシーを高めることができます。

〈批判的思考の促進〉新聞記事を分析することで、多角的な視点から物事を考える力を養うことができます。これにより、自己の意見を形成し、他者の意見を尊重する姿勢が育まれます。

〈社会への関心を高める〉新聞を通じて、社会問題や時事ニュースについて学び、社会への関心を持つようになります。これは、将来の市民としての意識を育むために重要です。

## 2. 方法

〈カリキュラムの統合〉教科書だけでなく、新聞記事を授業に取り入れ、実際の事例を基にした学習を行います。例えば、社会科の授業で記事を使って議論を行ったり、国語の授業で文章分析を行ったりします。

〈プロジェクト学習〉子どもたちが新聞を使ったプロジェクトを行い、調査や取材を通じて実際の社会問題について考える機会を提供します。これにより、実践的なスキルを身に付けることができます。

〈ディスカッションやプレゼンテーション〉新聞記事を基にしたディスカッションやプレゼンテーションを行うことで、コミュニケーション能力やプレゼンテーションスキルを向上させます。

## 3. 課題

〈教材としてのアクセス〉全ての子どもたちが同じように新聞を利用できるわけではありません。特に、家庭の経済状況や地域によっては、新聞購読が難しい場合もあります。

〈情報の偏り〉新聞は発行元の立場や意図によって情報が偏ることがあります。子どもたちに多様な視点を提供するためには、複数の新聞やメディアを利用する必要があります。

〈教員の研修〉NIE教育を効果的に実施するためには、教員自身が新聞の利用法や情報リテラシー教育について学ぶ必要があります。教員の研修が不足している場合、取り組みが効果的に行われなかったりすることがあります。

## 4. 結論

NIE教育は、現代の教育において非常に重要な役割を果たしています。情報リテラシーや批判的思考力を育むための有効な手段であり、社会への関心を高めるきっかけともなります。しかし、実施にあたってはアクセスの問題や情報の偏りといった課題にも留意する必要があります。教育現場での適切な取り組みや支援が求められます。



### 3 新聞講座

熊本日日新聞の担当者に、新聞講座をしてもらった(写真③)。城北小学校が取り上げられた記事を2つ読み、それぞれの見出しに当てはまる言葉を考えた。実際に記者がしている仕事を体験して、見出しに使う言葉を選ぶ中で、記事の書き手の思いに触れることができた。



写真③

### 4 NIEタイム

本校には朝自習の時間としてスキルタイムという時間がある。この時間を新聞を活用して学習するNIEタイムと位置づけた。この日のNIEタイムでは「月面着陸」のトップ記事を使用した。グループに同じ新聞を配布すると、子どもたちは宇宙船の写真を見ながら、友達と楽しそうにつぶやき始めた。また、新聞記事を読みながら答える自作のクイズを出題する活動をした。子供たちは夢中になって記事を読みながら取り組んでいた。最後に答え合わせをするときに、熊日の新生面や社会面の記事にもふれて解説を加えると、「なるほど!」「面白い!」という声が上がった。また、新聞記事から「漢数字探し」を行った。「一番大きな数字をさがしましょう」と言うと、「見つけたよ!」「もっ

と大きな数字があるよ!」と楽しみながら活動することができた。子供たちをよく見ると、記事のすみずみまで文字を読んでいることがわかった。学習した漢数字をたくさん見つけて喜んでいる子供たちも多かった(写真④)。



写真④ 授業で学んだ漢字も見つけた

### 5 NIEコーナー

本校には一つの教室をNIEルームとして、そこに自由に新聞を見られるコーナーを設けた(写真⑤)。いつでも自由に新聞を見たり、触れたりする場所があることで、新聞に慣れ親しむ機会をつくることができた。

新聞を自由に閲覧できる場所として、毎日届く新聞を「当日」「昨日」「2日前」の3日分並べ、誰でも自由に見られるように設置した。新聞並べは生活委員会の子どもたちがしてくれた。また、過去の新聞をためておく資料保管庫としての役割も果たした。



写真⑤

## 6 委員会×新聞

保健委員会の取り組みとして、その中の学校保健委員会に新聞を取り入れた（写真⑥）。「睡眠の量、質アップのためにできること」を各委員会で考える際のヒントとして「健康」や「睡眠」に関する新聞記事をピックアップして子供たちに配布した。



写真⑥

生活委員会では熊日の「くまもと高校図鑑」の芦北高校の記事をもとに、制服についての話し合いをした。ジェンダーレスに配慮し、制服を自由に選べることに注目し、そこから城北小学校の制服についての話し合いになった。「ズボン、スカートが普通だと思っていたけど、どちらでもいいことがわかった」という感想が出された。

## 7 家庭×新聞

NIEタイムで1枚の写真をもとに子どもたち同士で交流する時間を取り、学習シートに記入した。その新聞記事を持って帰り、保護者と考えて提出する課題を出した。学級通信でもその内容についてお知らせをしたところ、消費者の目線で米不足や食料品の値上がりについての問題を話し合うことができた。また、スポーツの日の新聞「子どもの体力、60年前のほうが上」という記事を学級通信で紹介した。この記事で

読んで親子でスポーツをする機会が増えたらいいなという願いからである。さらに、規格外の野菜や花を捨てずにうまく利用する取り組みが紹介してある記事を読み、保護者と一緒にごみを出さないようにする取り組みについて考えてもらった。日常生活の中で自分たちができる取り組みを考えることを通して、SDGsなくらしが子どもたちにとって身近であると感じることができた。

NIEタイム テーマ「防災」 4年 3組 ( )

① あそんでいたら、大雨がたくさんふって、道がこすいになっています。  
あなたはそんな時、どうしますか？

靴をはいて、助けを呼んでなるべく高いところに行って食料などを準備してすぐ動けるたいせいにしておく

② 地しんが起きたとき、あなたはどんなことに気をつけますか？

すぐに机の下に行き、頭を守って地震が終わったら食料を、準備して家から出て避難所に行く

③ 家庭で、防災のためにしている（してみたい）取組はありますか？

賞味期限が長い食べ物などを買って置く。倒れそうな物がないか確認する。家族での避難集合場所を決めておく。

④ 新聞に災害時でもかんたんに作れる食事がしょうかいしてありますが、災害時にできそうな食事をうちの方で考えてみましょう。

カセットコンロと、お鍋でご飯を炊いておく。ご飯でおにぎりを作る(塩おにぎり)。卵とご飯で卵かけご飯を作る。キャベツなどでサラダを作る。冷蔵庫の物を準備に食べる。



⑤ 家族がばらばらの場所にいる時に災害がおきたら、どこに集まるのか、家族で話し合っておきましょう。



(記入はされなくてよいです)

各家庭で取り組んだNIEワークシートの一例

## 8 成果と課題

成果としては、新聞の活用を工夫した実践を行ったことで、新聞に親しむとともに、新聞を活用する活動を行うことができた。また、教材研究の広がりや授業改善、授業力向上につなげることができた。

課題としては授業や朝自習に取り入れやすいように日ごろから新聞の保管やファイリングをする必要があると感じた。

# 3年間のNIE実践

～情報活用能力と読解力の向上を目指して～

菊池市立菊之池小学校 職員一同

## 1 はじめに

本校は、全校児童305名、職員29名の中規模校である。令和4年度よりNIE実践指定校として、3年目を終えた。

本校児童は、家庭で新聞を購読している児童も多いとは言えず、新聞に慣れ親しむ機会が少ないのが現状である。そのような中、全職員が話し合い、新聞に慣れ親しむことで、情報活用能力や読解力を高める実践について考えた。

児童は、実践初年度に比べ、新聞に慣れ親しむ様子が見られるようになり、自分から新聞を読もうとする様子が多く見られるようになった。そこで、この3年間の①「日常における実践」②「家庭学習における新聞の活用の実践」③「授業中における新聞の活用」について主にまとめることとした。

## 2 具体的実践について

校内研修の時間を活用し、新聞教育の実践を進める講師の先生をお招きして研修を実施した。研修では、新聞の特徴や教育現場での活用方法についての講話が行われたほか、実技を通じて具体的な活用方法を体験した。これにより、教師自身が新聞に対する理解を深めるとともに、授業での効果的な活用方法について考える機会となった（写真①）。



写真①：校内研修で新聞活用を検討

## (1) 日常における実践

### ①環境整備

児童が新聞に親しめる環境づくりの一環として、図書室や高学年の教室前にNIEコーナー（写真②）を設置し、熊本日日新聞などを常に読めるようにした。これにより、児童が新聞に関心を持ち、日常的に触れる機会を増やすことを目指した。



写真②：図書室のNIEコーナー

さらに、各階の廊下にも児童の興味を引く新聞を掲示し（写真③）、説明を書き加えることで、内容をより理解しやすくした。また、いつでも手に取って読めるようにした。児童が自然と新聞に慣れ親しめるよう工夫した。その結果、休み時間や給食の待ち時間には、児童が新聞を読んだり、その内容について楽しそうに会話したりする姿が見られた。



写真③：各階に掲示された新聞記事

②朝活動での新聞を使った学習

朝活動の時間を活用し、新聞を使った読解力や情報活用能力の向上を目的とした活動を行った(写真④)。児童が新聞記事からキーワードを抜き出したり、自分の考えをペアやグループで伝え合ったりすることで、記事の内容を深く理解し、他者と意見を交わす力を養うことを目指した。また、新聞の読み方に慣れていない児童のために、教師が「見出しの役割」や「写真の注釈の見方」など読み方を解説することで、児童が新聞をより深く理解できるよう支援した。



写真④：朝活動で取り組んだ新聞ワークシート

③子ども新聞の回覧



写真⑤：毎日小学生新聞

毎朝届く「毎日小学生新聞」(写真⑤)を各

教室に回覧した。翌日は、隣のクラスに新聞を回し、児童は毎日新しい新聞を読むことができた。図書室や廊下だけでなく教室にも新聞を置いたことで、「いつでも」「どこでも」「だれでも」新聞が手に取れるようになった。子どもたちも積極的に新聞を手に取り、会話する姿が見られた(写真⑥)。



写真⑥：子ども新聞を手にする児童

(2) 家庭学習における新聞の活用の実践

①スクラップノート

毎週末の家庭学習では、新聞を活用したNIEの取り組みを行った(写真⑦)。まず、児童が自分の興味を引いた新聞記事を選び、それをノートに貼ることで、身近な話題や社会の出来事に目を向ける機会をつくった。



写真⑦：児童が取り組んだスクラップノート

さらに、記事について「気になった理由」や「記事の内容」、「それに対する自分の感想」を書くように促し、記事をただ読むだけでなく、自分

の考えを整理し表現する力を養った。この活動を通じて、児童は記事の内容を深く理解し、情報を取捨選択する力や、自分の意見を持つ力を高めていった。

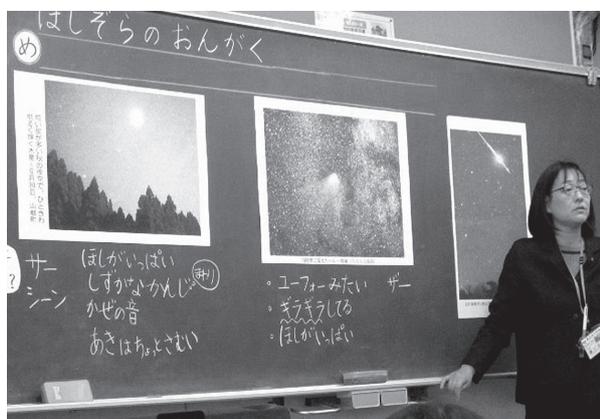
### (3)授業中における新聞の活用

#### ①1年生の実践(写真⑧)

この授業では、新聞記事に掲載された星空の写真を題材にし、その写真から感じ取ったイメージに合う音を選び、演奏を行った。使用する楽器は、タンブリン、カスタネット、トライアングル、鈴、鍵盤ハーモニカ、鉄琴など、多岐にわたる。

この授業に向けて、児童はこれまでに多くの楽器に触れ、それぞれの音色や強弱、リズムの違いについて学ぶ時間を積み重ねてきた。また、どのように演奏すれば表現が豊かになるかを考えながら、音楽づくりに取り組んできた。

新聞の活用については、まず写真を見て感じたことを出し合う活動から始め、写真に写る人物がどのようなことを考えているのかを想像したり、写真にふさわしい題名をつけたりする授業も実施してきた。これらの活動を通じて、児童は新聞を単なる情報源としてではなく、発想を広げる素材として活用し、表現力を高めてきた。



写真⑧：1年生の授業実践の様子

今回の授業では、新聞の写真から得たイメージを音楽で表現するという新たな試みに挑戦する。児童は音を組み合わせ、オリジナルの「ほしぞらのおんがく」をつくり上げることができていた。

#### ②3年生の実践(写真⑨)

本授業では、新聞の見出しに注目し、その役割について児童が理解を深めることを目的とした。見出しには、記事の内容を簡潔に伝えるだけでなく、読者の興味を引きつける役割があることに気づかせることをねらいとした。

授業の準備段階で、児童たちはこれまでさまざまな場面で新聞を活用してきた。例えば、調べ学習の際に新聞を情報収集のツールとして用いたり、見出しを使ってクイズを作成したりするなど、新聞を積極的に学習に取り入れてきた。これらの経験を踏まえ、児童たちは見出しの特徴や工夫に関心を持ち、授業への意欲を高めていた。



写真⑨：3年生の授業実践の様子

授業では、3年生が真剣に見出しの内容や記号の使い方を考え、活発に話し合う様子が見られた。自分たちで学びを深める主体的な学習姿勢が育まれていた。

また、参観者にとっても、児童の学びに対する熱意が伝わる、興味深い授業となった。新聞を活用した学習が、児童の思考を広げる有効な手立てとなることが改めて確認できた。

### ③ 6年生の実践（写真⑩）

本実践では、新聞を活用しながら菊池市の歴史について学ぶ授業を行った。特に、「菊池一族」に焦点を当て、児童が主体的に調べ、発表する活動を取り入れた。



写真⑩：6年生の新聞を活用した学びの様子

授業では、まず新聞記事を活用して「菊池一族」に関する基本的な知識を得る機会を設けた。その後、児童それぞれが興味を持った点につい

て追加の調査を行い、ノートにまとめる活動を実施。調査内容をもとに、ペアやグループで意見を交換しながら、理解を深めた。

発表の場では、児童同士が積極的に自分の考えや調べたことを発表し合い、質問や意見を交わす姿が見られた。これにより、単なる知識の習得にとどまらず、他者と協働しながら学ぶ力が育まれた。また、新聞を情報源として活用することにより、歴史への関心を高めるとともに、情報の取捨選択や要約の力も養うことができた。

### 3 成果（○）と課題（●）

- 初めは新聞を読むことに抵抗を持っていた児童も、朝活動で新聞を使ったワークシートを反復して行うことで、文字を読むことへの抵抗感を減らすことができた。
- いろいろな場所に新聞の掲示を行ったことで、児童は自然と新聞に触れる機会が増えた。また、新聞を読んでわからないことを担任に聞く児童もおり、新聞を通して世の中のことにさらに興味を持つ児童も出てきた。
- 学年部ごとに年間計画を見直し、どの教科の、どの単元で新聞を活用できるか検討する時間を設ける必要がある。
- 児童にとって必要感のあるものとして新聞を教材化することが難しかった。
- 低学年にとって新聞記事を読むことが難しい。丁寧な新聞の見方を説明したり、読み方を解説することが必要だった。

### 4 おわりに

NIE実践校としての指定を受け、3年間取り組んできた。低・中・高学年部ごとにNIE担当を配置し、すべての学年で共通して実践できるように体制を整えたことで、学校全体で一

貫したNIE活動を進めることができた。

NIEを難しく考えず、気軽に楽しく新聞を活用することを大切にしてきた。その結果、児童の中には「新聞にはさまざまな情報が載っていて面白い」と感じる姿が見られ、新聞を身近なものとして捉える意識が育まれてきた。

今後も新聞を活用した授業を継続し、児童の読解力や情報活用能力の向上を目指すとともに、教員一人ひとりのNIEに対する意識をさらに高めていく。今回の取り組みで得た知見をもとに、より効果的な実践へと発展させ、児童が主体的に新聞を活用できる力を育てていきたい。

# 「情報を読み解く力」をつけるN I E活用の実践

南関町立南関第二小学校 職員一同

## 1 はじめに

本校は、全校児童56名、職員18名の小規模校である。令和5年度よりN I E実践校指定を受け、本年度で2年目となる。

本年度は本校の校内研究の主題を「情報を読み解き、相手意識をもって発信する児童の育成～『わかった』『できた』を実感する授業を通して～」と設定し、「情報を読み解く力」を高めるためにN I Eの活用を行った。テレビやインターネット等でさまざまな情報があふれている現代だが、新聞は、多くの人の校正、校閲を経て私たちの手元に届く正しい情報であること、一目でたくさんの情報を得ることができることなどたくさんの良さがある。その中から自分に必要な情報を選び、読み解いていくことは、本校の子どもたちにつけたい力と大きく関わってくる。また、新聞投稿などを行うことで発信する力もつけることができる。そこで、新聞を活用し児童の「読む力」を、新聞投稿を通して児童の「書く力」をつけていきたい。また、学校行事や地域との交流を新聞に投稿することで児童の頑張りが学校・地域の魅力も発信していく。

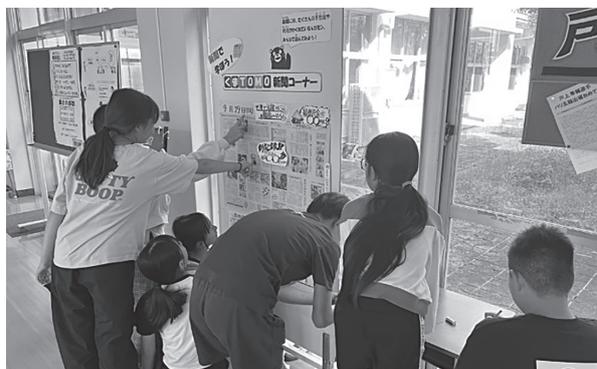
そのために、①「新聞コーナーの設置」、②「授業中における新聞活用の実践」、③「隙間時間における新聞活用の実践」、④「読売新聞ワークシート通信の活用」、⑤「新聞投稿の実践」について主に実践を行った。

## 2 具体的実践について

### (1)新聞コーナーの設置

熊本日日新聞では、毎週日曜日に小中学生向けのくまT O M O新聞が発行される。その新聞を昇降口前に掲示し、子どもたちが記事を読ん

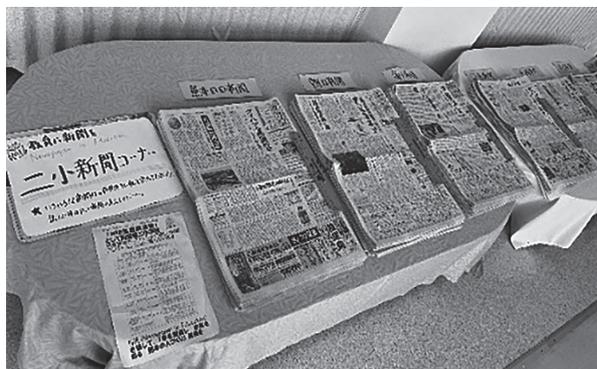
だり、記事についての意見を書いたりする「くまT O M O新聞コーナー」を設置した(写真①)。



写真①:くまT O M O新聞コーナー

下校指導の際に教師が新聞記事についてクイズを出したりすることで、学年問わず興味を持って記事に集まる姿も見られるようになった。

また、前年度に引き続き二小新聞コーナーも図書室前に設置した(写真②)。



写真②:二小新聞コーナー

6、7、9、10月は、熊本日日新聞、毎日新聞や朝日新聞、読売新聞、西日本新聞、日経新聞の6社から新聞が届けられた。これらを比べて読むことで、新聞によってトップ記事が違うこと、同じ記事でも表現の仕方や写真の見せ方など違いがあることに気づくことができた。子どもたちは図書室に来た際に足を止めて新聞を手にとったり、授業の調べ学習の際に自主的に新聞を活用したりする姿が見られた。

(2)授業中における新聞の活用の実践

①熊本日日新聞の電子版の活用

6年生では、総合的な学習の時間に一人一台タブレットで熊本日日新聞の電子版を活用した。電子版からおすすめの記事を一つ選び、SKYMENUに貼り付けて自分の意見を書かせた(写真③)。その後、グループワークの機能を使い、友だちとお互いの記事について意見交換をさせた。初めは、自分で記事を選ぶのが難しかったため、「平和賞」「環境」などテーマを与えて見つけさせていたが、回数を重ねるごとに自分が本当に気になる記事を選んで意見が書けるようになった。それに伴い意見交換も活発になり、互いに質問をしたり、記事の気になる部分にアンダーラインを引いて良さを認め合ったりする姿が見られた。



写真③：電子版を活用する様子

②図書司書による新聞記事紹介



写真④：図書司書が新聞記事紹介をする様子

本校では、国語科で各学年、週に1回以上図

書室で本を借りる時間を作っている。2年生では、図書室に行った際に、図書司書が自分が気になった記事や子どもたちに読んでもらいたい記事などを紹介する取り組みを行っており、他の学年にも広まっている(写真④)。

③公開授業

(ア)音楽科での活用

1年生音楽「がっきとなかよくなるう」の学習では、新聞の写真からどのような音が聞こえてくるか想像し、楽器で音楽づくりを行った(写真⑤)。友達と協力して、聞こえてきそうな音を擬音で表したり、どんな音の出し方をするとよいか考えたりなど、音楽づくりの材料をたくさん集めることができた。お互いの音楽を聞き合い、「この楽器がいいんじゃない」「次はこれを使ってみよう」と楽しみながら活動することができた。

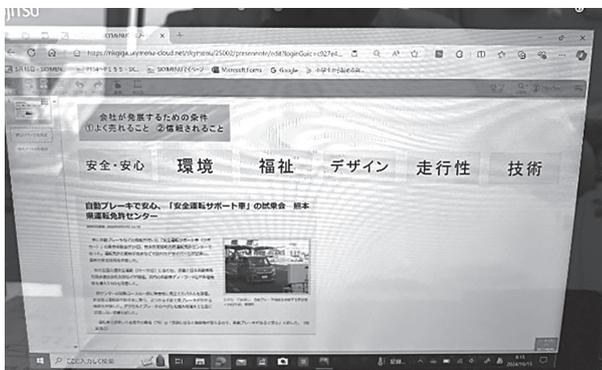


写真⑤：音楽作りの様子

(イ)社会科での活用

5年生社会「自動車の生産にはげむ人々」の学習では、自分たちが自動車会社を作るとしたら車作りにおいてどのようなことを大切にしたいか考えた。その根拠として新聞記事を活用し、もっとも大切にしたいことを他のグループに説得するためにはどの記事が効果的か話し合った

(写真⑥)。たくさんの情報から自分たちに必要な情報を読み解く力をつけることができた。



写真⑥：新聞を根拠に自分の考えを発信する

(ウ) 公開授業研究会から

公開授業後に研究会、討議を行った。討議の柱は、「育てたい力（資質・能力）を高めるためにNIEやICTをどのように活用すると良いか」とした（写真⑦）。



写真⑦：授業研究会の様子

(参加者の感想から)

・紙媒体の新聞とICTは相反するものではなく、教える側がテーマや目的を把握し活用することで思わぬ相乗効果が生まれるということを実感しました。入り口は新聞でも、その後にはICTを活用することで新聞の教材としての可能性が格段に広がるのではないかとこのことを学ばせていただきました。

(3) 隙間時間における新聞活用の実践

① 1分間スピーチ

隙間時間における新聞活用の実践は、各学年に応じて担任が工夫して行っている。朝の会で日直が行う1分間スピーチのテーマとして、自分が気になった新聞記事の紹介をした（写真⑧）。こども新聞を活用することで、3年生でも自分で紹介する記事を選ぶことができた。



写真⑧：1分間スピーチで記事紹介

② 新聞ノート

本校は複式学級があり、複式・単式授業を組み合わせた時間割を組んでいる。そのため、担任外が授業を行うこともある。子どもたちとのコミュニケーションツールの一つとして、新聞ノートを作った教師もいた。教師が新聞の内容や使われている漢字の問題を出題し、子どもは、ノートに答えを書いてくる。ノートを持ってきて答えを確認したり、新聞記事について担任外の教師と話をしたりする姿が見られた（写真⑨）。



写真⑨：新聞ノート

(4) 読売新聞ワークシート通信の活用

4～6年生では週末の課題として、読売新聞ワークシート通信に取り組んだ。読売新聞が発行しているワークシートで記事について内容を読み取ったり、自分の考えを書いたりすることができる。校長は、子どもたちが持ってきたワークシートを添削し、内容に応じて星の数で評価をしている。各学年、掲示板にワークシートを掲示しているため、どのような読み取り方をしたり、調べ学習をしたりすると星を増やすことができるのか参考にしている。校長と新聞記事について話をし、読み取ったことを言葉にすることで自分の考えを整理したり、さらに深めたりすることにつながっている (写真⑩)。



写真⑩：アドバイスを受けている様子

(5) 新聞投稿の実践

南関第二小学校では、4年ほど前から新聞投稿に意欲的に取り組んでいる。内容は、児童自身の目標やがんばり、学校行事、地域との交流などさまざまである。週末の宿題等で作文に取り組ませている学年が多く、ぜひ発信したいという作文については新聞に投稿している。

地域の方からの反響が大きく、二小校区の地域の方から「毎回楽しみに読ませてもらっています」といううれしいお言葉をいただいたり、授業でお世話になった方から、「新聞に投稿していただいてうれしいです」と手紙をいただいた

りもした。これほど、新聞には大きな影響力があり、より多くの人に学校や地域の魅力を発信することができることを実感した。ここでは、新聞に投稿された一部の作文を紹介する (写真⑪)。



写真⑪：地域の魅力を発信する作文

3 成果 (○) と課題 (●)

- 新聞投稿を続けたことで、県学力調査においてどの学年においても「書く力」の向上が見られた。
- 初めは新聞を読むことに抵抗を持っていた子どもも、日頃から新聞に触れる機会を作ったことで、くまTOMO新聞コーナーで足を止めたり、新聞記事を自学にしたりする姿が見られるようになった。
- 前年度は、4～6年の上学年を中心に実践を行ったが、本年度は、下学年でも授業や隙間時間等で新聞の活用を推進することができた。

- 電子版を活用することで、検索機能を活用して自分の必要な情報を選び出したり、SKYMENUに貼り付けて意見を交換したりすることができた。
- 新聞という紙媒体とICTの使い分けが必要だと感じた。それぞれの良さを理解し、場面に応じて効果的な使い方を模索していきたい。
- 年間を通して、NIEの取り組みを続けるのは、難しかった。負担にならず、効果的に活用できる方法を模索していきたい。

#### 4 おわりに

NIE実践校の指定を受け、2年目を終えた。前年度に比べ、職員もNIEへの関心が高まり、さまざまな取り組みを工夫することができた。また、効果があったり、子どもたちの反応が良かったりした取り組みについては、お互いに情報を共有し合い、学校全体でNIEに取り組むことができた。特に、本年度は、校内研究を国語科とし、「情報を読み解く力」「相手意識を持つ力」「発信する力」の向上を目指したため、NIEの活用はとても効果的であった。

新聞は、「書く力」「読む力」「対話する力」など子どもに必要な力を身につけさせることができるツールであると、2年間の取り組みを通してひしひしと実感した。今後も、育てたい資質・能力を身につけさせるために、新聞の良いところをうまく活用していきたい。

# 進んで考え、表現する児童の育成

～効果的な新聞活用を通して～

菊陽町立菊陽北小学校 職員一同

## 1 はじめに

本校は、熊本県の北部に位置しており、全校児童556名の中規模校である。校区に大手企業の工場があり、近年、世界最大手の台湾企業「TSMC」の工場が建設されるなど地域の変化が激しく、人口も急増している。令和6年度より、NIE実践指定校となっている。

本校では、学校教育目標に「夢を持ち、夢をはぐくみ、夢を実現する教育へのチャレンジ！～考動力～」と掲げており、毎日の授業や教育活動を行っている。本年度は「進んで考え表現する児童の育成」というテーマで校内研修を行っており、特に導入の工夫と学び合いに焦点をあてた授業づくりを実践している。これまでの取り組みを土台として、新聞を活用した導入の工夫や表現力の向上の取り組みなどを行った。

## 2 取り組みの実際

### (1)新聞の日常的な活用

本校のほとんどの児童は「新聞を読んだことがない」「家でも新聞をとっていない」という状況で新聞との関わりがほぼなかった。そのような状況では新聞のよさや生活に生きることを感じる事ができないと考え、まずは日常的に新聞に関わるような場や活動の工夫を行った。

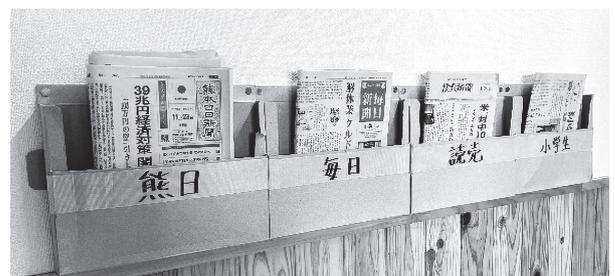
#### ①朝活動での活用

朝の会において日直がその日の新聞記事を選びクラス全体に紹介するという取り組みを行った。児童は朝からいくつかの社の新聞からクラスのみんなに紹介したい記事を選んでいった。「スポーツ好きな人が多いからこの記事にしよう」「今日は過去に災害が起きた日だからこの記事にしよう」など伝えたい相手に合わせた記事を

選んでいた。発表のやり方にも工夫を加え、全文読み上げるのではなく、「1分以内に要約すること」「自分の感想を言うこと」とした。その結果、一人ではできない児童は朝から友だちと記事を読み、要約の仕方を考えていた。また、教師のところに行き、アドバイスを求める姿もあった。アドバイスをすることで文章を理解し、要約する力を個別に指導することにもつながった。さらに発表の後に記事の内容が気に入り、記事を自ら読み直す児童の姿も見られた。



写真①：スピーチ用の記事を選んでいる様子

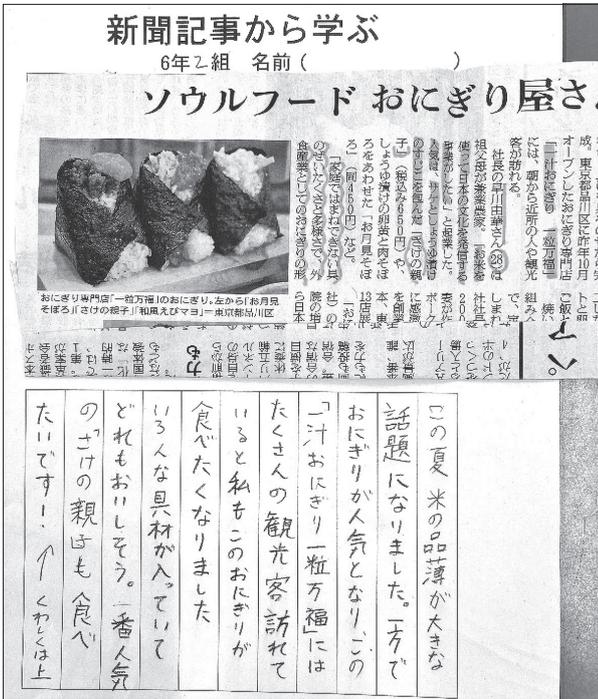


写真②：新聞掲示コーナー

#### ②家庭学習での活用

家庭で新聞を取っている児童が少ないという状況があったので、学校で新聞記事を選び切り抜き、ワークシートに貼って家庭で感想を書くという家庭学習を出した。児童はスポーツ記事や政治の記事などの記事以外にも「おにぎり」の記事や「動物の記事」などそれぞれに興味を

ある記事を選びその感想をワークシートに記入していた。



写真③：おにぎりの記事についての感想

写真③のおにぎりの記事については「この夏お米の品薄が大きな話題になっている」という書き出しから入るなど、記事を選択した理由を述べていた。

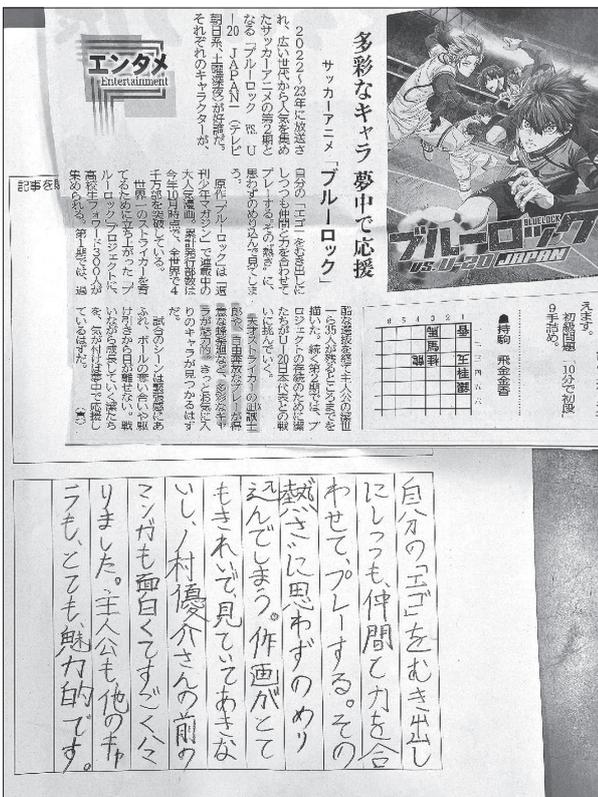
写真④のアニメについての記事では「自分のエゴをむき出しにして仲間と力を合わせてプレーする」という書き出しにすることで読み手を引きつける工夫をしている。これを書いた児童に話を聞いてみると「とにかくこのアニメが好きで他の人にも見てほしい」と話していた。

このような家庭学習の取り組みを行ったことで児童が相手を意識した文章の書き方を考えていた。

(2) 授業における活用

① 「平和新聞をつくろう」

6年生の総合的な学習の時間において、平和学習で学んだことや修学旅行で学んだことを平和新聞にする活動を行った。新聞を書き始める時に「レイアウトはどうしよう」「新聞の作り方ってどうするの?」という疑問から新聞を読んで書き方を考える学習を行った。



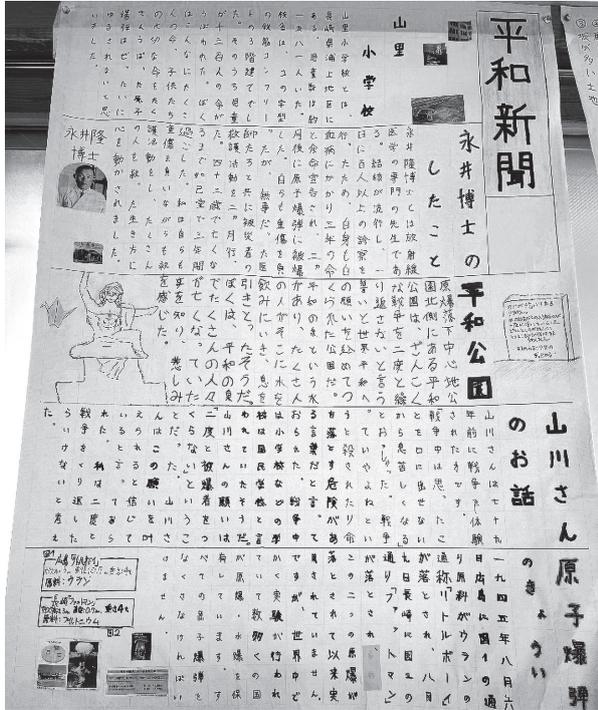
写真④：アニメについての記事の感想



写真⑤：見出しを考えるプレゼン

写真⑤のプレゼンを使って見出しを考える授業を行った。実際の記事の見出しを穴埋め形式にして何が入るのか考えていった。考える中で児童が自然と記事を読み、伝えたいことやそこから絞り出される言葉を一生懸命考えていた。見出しが終わると実際の記事を書き始めた。今

度はいくつかの新聞社の記事を見比べて、見る人にインパクトを与えるレイアウトはどれなのか考えていた。



写真⑥：完成した平和新聞

できあがった新聞には、見出しの言葉や色、文字の大きさ、図や写真の大きさ、位置など細かなところまで丁寧に考えられていた。完成後には全校児童が見る場所に掲示し、掲示後に他学年に感想を聞くなど、伝わっているのかを確認する活動を行った。確認する中で「思った以上にみんなに伝わっていた」「伝えたいところを感想で言ってくれた」など伝わったことを実感する感想があった。

## ②算数科「帯グラフと円グラフ」

本単元では、帯グラフと円グラフの仕組みを知り、それを統計的解決に生かしていくことを目標としている。児童は総合的な学習の時間に「この学校をもっとよくするためにはどうしたらよいのか?」という課題から、「安全な生活」「人によって態度を変えている」「残食が多い」

「時間を守っていない」ことについてデータを根拠に伝えていくことを確認し、帯グラフや円グラフの学習に入っていった。

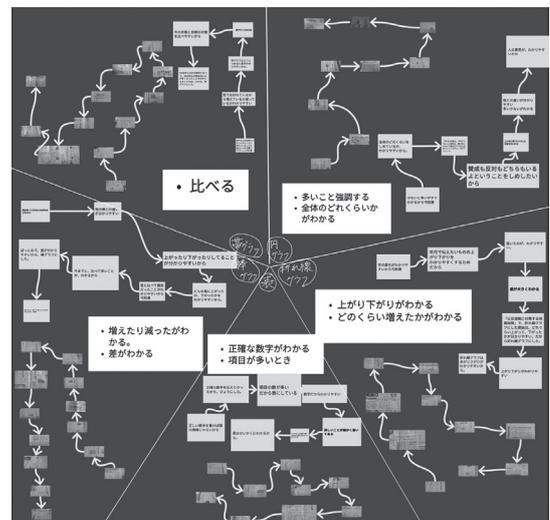
学習を進めていく中で、「伝えたいことを伝えるには、どのグラフを使うとよいのだろう?」という疑問が児童から出てきた。そこで、グラフを使うプロとして「新聞記者はどうやってグラフを選んでいるのか」について新聞記事を見て調べる学習に取り組んだ。



写真⑦：グラフの分析に使った新聞

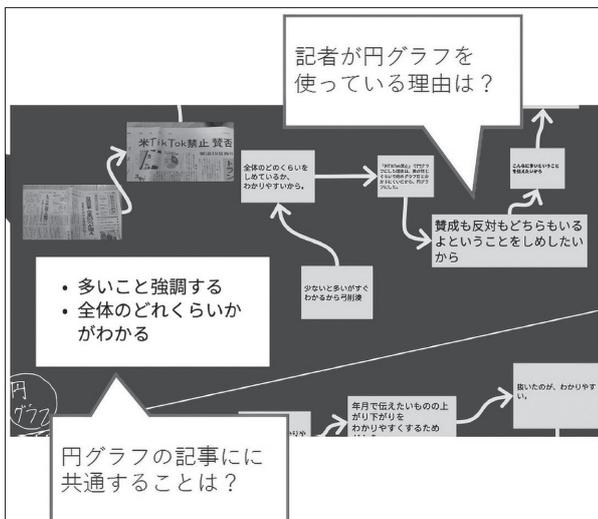


写真⑧：グラフを探している様子



写真⑨：写真と気づきをまとめたロイロノート

グラフを見つけたときにはグラフの写真とそのグラフを説明している見出しと一緒に写真に収め、ロイロノートの共有ページにまとめていった。まとめる活動をする中で「あれっ、帯グラフが思っていたより少ないぞ」「円グラフは多いなあ」「これは棒グラフ？帯グラフ？」「なんでこれは表なんだろう？」など新たな疑問や気づきがたくさん生まれ、児童は自然とそれについて議論を進めていた。その後、写真を見ながら「記者はなぜこの記事を選んだのか？」について考え、考えられる理由をピンクの付箋にまとめていった。次にピンクの付箋を見て、共通することを白い付箋に書いていった。授業の終わりには、それぞれのグラフの使い方についてまとめ、次時の自分のグラフ作りへとつなげていった。(写真⑩)



写真⑩：気づきのまとめ

授業後の振り返りには「新聞をこんなにしっかり読んだのは初めてでした。読んでみて新聞記者の人たちがこんなに考えて記事を書いているんだと思いました。また家でも読んでみたいです」「グラフはスポーツよりも政治や経済に多いことがわかりました」「自分も家で兄弟とけんかしたときにグラフを使って説得力を持って伝えていきたいです」などの記述があった。

### 3 成果 (○) と課題 (●)

- 日常的な新聞活用としてスピーチや家庭学習に取り組んだことで、児童が表現の方法を自然と学ぶことができていた。スピーチでは、相手を意識した言葉の選び方や要約の仕方を学ぶことができていた。家庭学習では、「伝えたい」という思いから新聞を参考にして記事や見出しの書き方を考えることができていた。
- 平和学習のまとめに新聞を活用したことで、レイアウトや色、文字の大きさなどを児童が必然感を持って学ぶことができた。
- 算数科の学習において新聞記事からグラフを見つけ、記者がグラフを選んだ理由を考えていったことで、児童が必要感を持って新聞記事を読み比べ、まとめ検討していく中でグラフに対する学習が深まっていった。
- 今回は高学年を中心に実践に取り組んだが、低学年や中学年でも活用できる方法を考える必要がある。
- 新聞をたくさん使って取り組む実践はとても効果があったが、それを学校全体に広げるとなると新聞の数がもう少し必要であった。
- 今回は総合的な学習の時間と算数科の時間に活用したがその他の多くの教科で活用する方法を引き続き模索していきたい。

### 4 終わりに

NIE実践指定校として1年が経った。手探りで実践を進めていったが、とても高い教育的効果を感じた。何より「他にもっと効果的な活用方法はないのか？」と考えることが楽しかった。今後もいろいろな状況や教科で新聞が活用できる方法を探し続け、実践していきたいと考えている。

# 他者を意識した表現活動による、書く・話す力の育成 ～NIEをもとにした作品づくりや発表活動を通して～

山都町立矢部小学校 職員一同

## 1 はじめに

本校は在籍児童213名、職員30名の学校である。

前年度よりNIE実践指定校となり、教員・児童ともにまずは新聞に親しむということを前提に活動をスタートした。

2年目となった本年度は、表題に示したように「他者を意識した表現活動による、書く・話す力の育成～NIEをもとにした作品づくりや発表活動を通して～」を校内研修のテーマとして実践に取り組んだ。

以下、具体的な取り組みについて述べていく。

見出しについてであったり（写真②）、以下のような内容であったりを学ぶことができた。

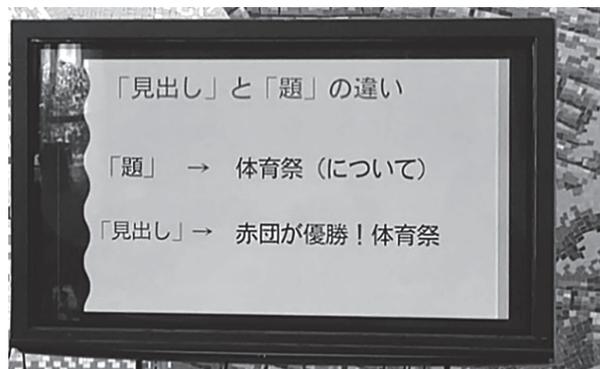


写真①：実際に新聞に触れる様子

## 2 校内研究テーマにむけての取り組み

### (1) 担当者との打ち合わせ

4月当初、熊本県NIE推進協議会の担当者にNIEを基盤とした表現活動への取り組みを行いたい旨を伝えた。そこで話が挙がったのが、新聞記事のつくり方から、他者を意識した表現活動のノウハウを学び、今後の本校の表現活動に生かしていくというものだった。



写真②：見出しについて

### (2) 校内研究テーマの決定

そこで、2年目の校内研究のテーマを「他者を意識した表現活動による、書く・話す力の育成～NIEをもとにした作品づくりや発表活動を通して～」とした。

- ・インタビューする際には最低限の勉強をしておくこと。
- ・質問は5W1H（いつ・どこで・誰が・何を・なぜ・どんなふうに）で聞いたり書いたりすると分かりやすい（写真③）。
- ・相手の目を見ながら聞く。メモすることを意識しすぎない。
- ・文章は長すぎず、多くの人が興味をもって読めるようにする。
- ・相手が熱をもって話したところを書く。
- ・うそや、思い込みを書いてはいけない。

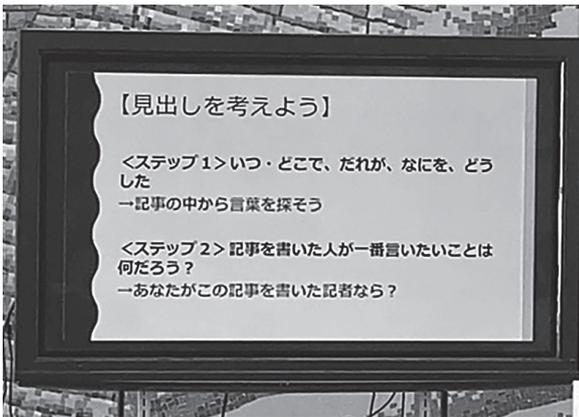
## 3 新聞記事のつくり方から学ぶ

### (1) 1回目

新聞記事のつくり方から学ぶということで、6年生で実際に授業を行った。2回に分けて行い、1回目では実際に新聞に触れ（写真①）、

・その場で感じたことを大切に書く。でなければ行った意味がない。

また、活動の最後には子どもたちが新聞記者役になり、本校職員にインタビューをする活動も行った（写真④）。



写真③：5W1Hについて



写真④：新聞記者になってインタビューする児童たち(右)

## (2) 2回目

1回目の出前授業の1週間後、第2回出前授業を行った。2回目の授業では、前回のインタビューをもとに作成された新聞（写真⑤）に自分たちで見出しを考える活動（写真⑥）を行い、読者（他者）を意識して表現する活動に取り組んだ。



写真⑤：前時のインタビューをもとに実際に作成してもらった新聞



写真⑥：見出しを考える児童

## (3) 全児童への広げ方

### きくときとかくとき

1・2ねんせいへ  
1・2ねんせいはきんじょのひとにはなしをきくときやそれをかくときにこまったときはありますか？ここではかくときときくときにたいせつなことをおしえます。

きくときにたいせつなこと  
きくときにとくにたいせつなことはあいてのめをみてはなしをきくことです。そしてしっかりとめもをすることもたいせつです。これをいしきてはなしをきいてみてください。



かくときにたいせつなこと  
かくときにとくにたいせつなことはいつ、だれが、なにを、なぜ、どうしたかをかくのがたいせつです。めもをおてほんにして、このことをいしきてかけてみてください。

写真⑦：1・2年生へ向けたポスター

学んだことを下の学年へ広げていくために6



また、「みなおしコーナー」(写真⑨)を設置することで、お互いに見直し合ったり、見直したものを再度修正したりすることができ、それぞれに合ったペースでよりよいものを目指すことができた。

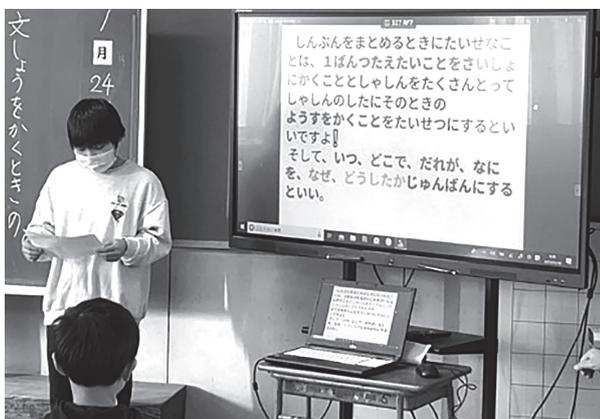
### (3) 1年1組授業実践

#### ①単元のゴールの設定

「6年生にお礼の手紙を書こう」という単元のゴールを設定した。お世話になってきた6年生に手紙を書くという目標にしたことで、子どもたちは積極的に学習に取り組み、たくさんの文章を書いていた。書いた手紙については「新聞」という形式で6年生に送ることにした。

#### ②推敲の場面設定

新聞記者の方から聞いた話をもとに、6年生が文章の書き方について1年生にアドバイスをする時間を設定した。5W1Hや、初め・中・終わりの段落構成につながる書き方の順番などを教わることができた。お世話になってきた6年生からのアドバイス(写真⑩)ということで、1年生も一生懸命話を聞き、推敲の場面では「」(かぎかっこ)を使って言葉や気持ちを表す活動にも積極的に取り組み、最後までよりよいものにしようという姿勢が見られた。



写真⑩：6年生からのアドバイス

### (4) 6年1組授業実践

#### ①単元のゴールの設定

国語の「大切にしたい言葉」という単元で取り組みを行った。自分が大切にしたいと考える言葉を卒業文集に載せることを単元のゴールに設定し、新聞などから言葉を選んでいった。新聞や本から選んでいくということで、子どもたちも自分の感覚に合う言葉を主体的に探していた。

#### ②推敲の場面設定

推敲の場面では、記者の方から教わった5W1Hを使って行った。下書きの文章に対してグループのメンバーが5W1Hを使って質問していき、書いた本人がそれに答えていった。そうすることで自分の文章に付け加えた方がよい内容を確認することができた。また、卒業文集に載せるという必要性もあり、子どもたちにとっては最後まで主体的に取り組むことができる活動となった。

## 5 授業以外での実践

### (1) 新聞コーナーの設置



写真⑪：児童用おすすめ記事とクイズ

児童にとって興味をもってほしいことや、関係のありそうなことをおすすめ新聞記事として掲載した(写真⑪)。内容はその時にあわせたものを選び、子ども新聞の中から掲載した。クイズも混ぜて子どもたちにチャレンジさせたこ

とで、子どもたちにとっても興味をもちやすいものとなった。

## (2) インタビュー記事の作成

学習発表会では、それぞれの学年が学んできたことを新聞やポスターにしてまとめた(写真⑫)。書く際には6年生から教えてもらったことをもとに、読む人の立場に立って文章を考えることができた。



写真⑫：2年生の「仕事インタビュー」のまとめ

## (3) 委員会・児童会活動

委員会や児童会活動の中でも他者意識をもって推敲し、よりよいものを作る取り組みを行った。放送委員会では先生インタビューを行う際に5W1Hを意識してお願いの手紙を書いた(写真⑬)。また、児童集会での発表では、他の児童が見やすいように文字の大きさを意識したり、文字の配置、資料の順番などを考えたりしながら、よりよいものを目指していた。



写真⑬：お願いの手紙を書いたり、発表用の資料を作ったりする中で推敲の場面を設定

## (4) 新聞への投稿

行事が終わった際に振り返りの作文を書くのだが、その作文を新聞に投稿した。本年度は2名の作文が掲載された。

## 6 成果(○)と課題(●)

- 校内研究のテーマとNIEをリンクさせ、学校全体で「他者意識」と「推敲」を中心とした取り組みを行うことができた。また、年度当初に6年生が「新聞記事の作り方」を学び、それを職員や他学年の子どもたちに広めたことで1年間の取り組みを明確にすることができた。
- 「誰に送りたいか」を設定することで、丁寧に書いたり、よりよいものを作ろうとしたりする必要性をもたせることができた。また「推敲」についても、送る相手が存在することで意欲的に取り組むことができた。チェックリストを作ったり見直しコーナーを設けたり、推敲するための場の設定や評価の基準を設けることで子どもたちの中で推敲する意識を自然にもたせることができた。
- 新聞クイズでは、子どもたちが主体的にクイズに取り組み、新聞を読む機会が増えた。
- 「推敲」をテーマにしたことで委員会活動や児童会活動などでも、5W1Hを意識して文章を作ったり、資料を見やすいものにしたりすることを意識させることができた。
- 新聞自体を活動の中心に据えて行う取り組みが十分ではなかった。新聞コーナーなどは設置したが、どの学年がどのように新聞で学んでいくのか、段階を追った取り組みができず各担任の取り組み方に任せてしまったところがある。
- 授業や児童会活動など、意図的に推敲させる場面ではよりよいものを作る意識をもたせる

ことができたが、学力調査や普段のテストなど、自分だけで取り組む場面で推敲したり文章を見直したりするという意識をもたせることはできなかった。

## 7 おわりに

本年度は新聞記事の書き方から他者を意識した表現をテーマに取り組んできた。子どもたちは表現する相手を設定することで主体的に学習に取り組んだり、推敲に取り組んだりすることができた。新聞記事には他者に興味をもたせたり、納得させたりするための手法がたくさん盛り込まれている。そのノウハウを学び、それを生かして表現に取り組んできたことは、子どもたちの表現力を上げるだけでなく、相手に届けたいという主体性も大きく育てることができた。

今後も他者を意識した表現にこだわり、子どもたちの学びを高めていきたい。

# 「自立した学習者の育成」に向けた新聞活用の実践

高森町立高森東学園義務教育学校 職員一同

## 1. はじめに

本校は、熊本県阿蘇郡高森町の東に位置する児童・生徒合わせて43名が在籍する義務教育学校である。

町内共通の研究主題「自立した学習者の育成」を受け、必要と考えられる3つの資質・能力を育むために、義務教育学校としての強みを生かした教育活動を展開しながら、日々授業改善に取り組んでいる。

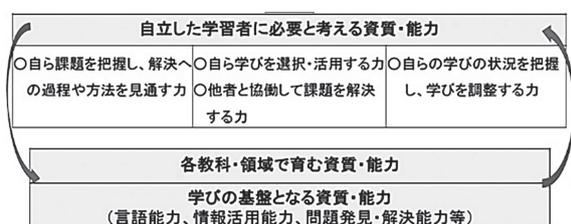


図1. 必要と考える資質・能力

また、本校ではサブテーマとして「小中一貫教育における教室の枠を越えた学びの展開を通して」と設定し、特に、専門家とクラウドや遠隔オンラインシステムを活用して高い専門性を学びながら探究的な学習や体験活動などに取り組む姿をめざしてきた。

前年度よりNIE実践校の指定を受け、さまざまな場面で新聞を活用した教育実践を行うことで、児童・生徒の自立した学習者として必要な資質・能力の育成を図った。

## 2. 具体的な取り組み

### (1) 授業での実践

#### ① 3・4年生

【高森ふるさと学（総合的な学習の時間）】では、単元名を「友だちや地域の人に地図にはのっていない、高森東のよさを伝えよう」として、新聞・ポスター・スライドづくりを行った。

単元の導入に入る前に、朝活動の時間を使い、

児童は新聞の中から気になる記事を探し、感想を付箋に書いて貼り付ける活動を行った。新聞には社会や政治、スポーツなど多くの情報が掲載されていることに気づくとともに、興味・関心は人それぞれであることに気づいた。



写真1. 児童が選んだ新聞記事の掲示

単元の導入場面では、児童は自ら考えた地域のよさを伝えるための手段として新聞・スライド・ポスターの中から選んだ。4年生は国語科「新聞を作ろう」での学習を生かして、新聞を伝える手段と



写真2. 新聞を見比べる様子  
して決めた児童が多かった。記事を作成するための画像や動画などの資料は、家庭学習として集めた。児童はそれぞれ自分が伝えたい地域のよさを伝えるために必要な写真や動画を撮ってドライブ上に保存した。

記事作成にあたり、まず新聞の書き方の工夫を見つけるために教師が用意した工夫のない新聞と実際に発行されている新聞を見比べた。児童は新聞には見出しがあることや項目ごとに書

く場所が区切られていることに気づいた。

そして熊本日日新聞社の担当者をゲストティーチャー（GT）として招き、新聞の割り付けや見出しのつけ方を学んだ。



写真3. GTによるレイアウト指導の様子

児童は「自然の豊かさを伝える新聞にしたいのですがどんな割り付けの仕方ができますか」とGTにアイデアを求める姿も見られた。

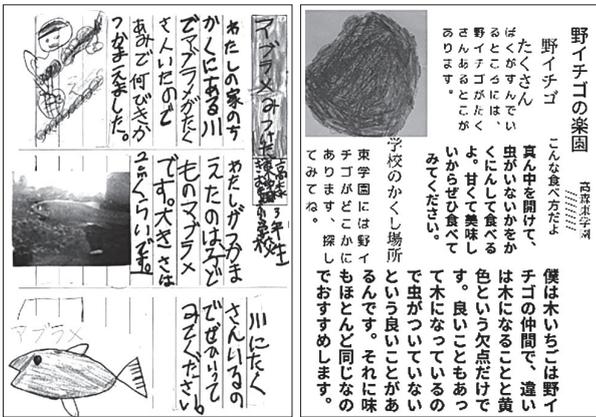


写真4. 児童が作成した新聞

児童が作成した新聞やスライドをQRコードにして校区MAPに貼り付け、秋に行った文化祭で掲示した。

この取り組みによって、地域の現状から児童自ら課題を設定し、探究的な学習に取り組むことができた。新聞の仕組みについて熊日の担当者から直接指導を受け、集めた複数の情報をもとに記事を作ることで、目的に向かって情報を論理的に整理する力や、ICTを効果的に活用

する力の育成を図ることができた。記事の作成においては、異学年の協働により、相互に考えを広めたり深めたりする学びを実現することができた。そして、地域の方々へ発信することで、学校と地域との連携や協力の成果を共有すること

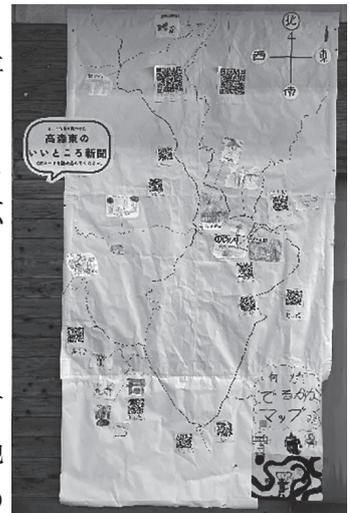


写真5. 掲示した校内MAP

## ②9年生社会科（公民分野）において

日々新聞に掲載されている記事は、公民分野で学習する内容に関するものが大変多い。気になる記事があったときは、すぐ教室に持ち込ん



写真6. 授業の様子

で紹介した。現9年生は社会問題に対して関心が高く、新聞記事を紹介すると真剣に考える姿がよく見られた。特に年明けに、次年度の予算審議、地方行政、国連安保理の記事が同日に一面に掲載されたことがあり、学習内容と関連させて考えることができた。以下は、為替相場に関する内容の授業で、新聞を活用した授業の振り返りである。

経済がグローバル化する中、金融がどのような影響を受けているのかを知ることができた。また、「円安」はドルの値段が上がり円の価格が下がることで、「円高」は円の価値が上がり、ドルの価値が下がるということがわかった。これからも、円高や円安のことはニュースで報道されるので注目しておきたいと思った。

「円安」「円高」や「インフレ」「デフレ」などの、ニュースなどでよく耳にする言葉を通し、今の為替相場の状況を知ることができた。今回も参考例と世界の状況と重ねて学習することができた。これからも為替相場などに注目して生活していきたい。

世界がグローバル化することで、日本の経済に大きな影響を与えていることが分かった。また、円安と円高によって、貿易にどのような影響が出てくるかが分かった。これからも日本の社会の動きと為替相場に注目していきたい。

金融の影響について勉強して、円をドルに交換する人が増えるとお金の価値が上がることがわかりました。

資料1. 授業後の振り返り

## (2) 授業外での実践

### ① 新聞コーナーの設置

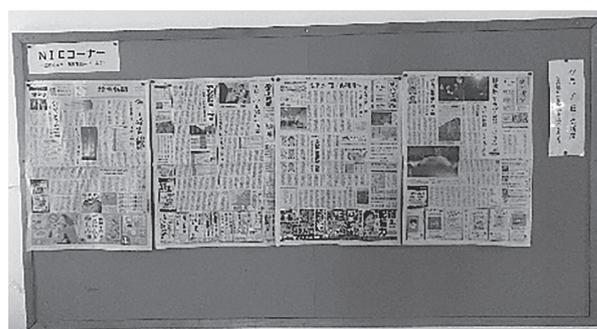
複数の新聞が学校に届けられており、本校の児童・生徒がいつでも手に取ることができるように、ランチルーム横に「新聞コーナー」を設置した。

また、掲示コーナーに数社の新聞1面を張り、見出しの比較ができる掲示をしたり、週1回程度掲載される子ども向け記事を掲示したりするなどして紙面に関心が持てるように工夫した。

どちらもランチルーム横という場所に設置したことで、給食待ち時間などに手軽に新聞を手にすることができ、記事に関する話題で話す場面が見られた。また、近くにいる職員に質問する姿もあり、興味・関心が高まっている様子が見られた。



写真7. 新聞掲示コーナー



### ② 熊本日日新聞への投稿

3～6年生の児童の暮らしについての短い詩を熊本の「たから箱」に投稿する取り組みを行った。学習活動や毎日の日記をきっかけにして、学校での体験や家族について、思ったことや感じたことを詩にして投稿した。



写真8. 投稿掲示コーナー

投稿した詩は、朝刊1面のコラム欄横に掲載されており、コピーしてすべての児童・生徒が通るランチルーム前に掲示した。また、朝のラジオ番組でも紹介された。ただ放送中は登校中で聞くことはできないので登校してから番組配

信を教室で聞き、さらにアナウンサーのコメントを聞いて、放送された児童はたいへん喜んでいました。地域の方々からも新聞やラジオ放送のことについて、話題にされており、子どもたちの姿や地域への思いを深く知ってもらいきっかけとすることができた。

### ③異学年活動（ブロック活動）での実践

8・9年生の朝活動において、新聞記事を活用した「文字さがし」を行った。指定された文字を探すことを通して、新聞に親しむことや社会の事象への関心を高めることをねらった。また、8年生には特別支援学級があり、在籍する生徒でも同級生や上級生とともに楽しく活動できる内容ということもあり、実施した。

1学期に4回ほど実施したが、回数を重ねるたびにを見つけるスピードが上がっていた。また、特別支援学級の生徒も毎回楽しそうに参加し、指定された文字を見つけると、とても喜ぶ姿が印象的だった。



写真9. 活動の様子

### ④新聞紙の活用（ゲーム）

新聞紙はさまざまな用途で活用できるが、今回は5月に行われた運動会の結団式で活用した。本校は義務教育学校であるため、1～9年生が2つの団に分かれて競い合う。1、2年生の低学年の児童も、後期課程の生徒と触れ合うことが日常的に多いが、団の結束力を高めるた

めに結団式において新聞紙を使ったゲームを行った。

赤・白両団の顔合わせのあと、1年生から9年生でコミュニケーションを取るために新聞とバスケットボールを使ったボール運びゲームを行った。1年生は新聞紙をボールの動きに合わせて傾けたり、手放さないように握ったりすることが難しい様子だった。他の学年は、下の学年に合わせて速度や高さを調節しながらボールを運ぶことが難しい様子だった。自分たちで折り方を変えたり、速度を変えたり、声を掛け合ったりしながら楽しんでゲームに参加することができた。

すべての学年で楽しむことができ、また、団の対抗で実施したので大変盛り上がり、温かい雰囲気の中で結団式を行うことができた。



写真10. 結団式にて

### ⑤教職員向け回覧・研修での活用

本校に届けられている新聞記事の中から、教育に関する内容の記事を切り抜き、担当者から回覧するようにした。普段は地元紙しか読まない職員も、全国紙など違った切り口から書かれている記事に関心を持って読んでいた。副校長は教育に関する記事だけでなく、地元高森の記事、さらに不祥事にかかる記事を回覧した。こちらの回覧は副校長からのコメントがあり、職員もひと言が返すことができるように工夫して

あった。

また、毎月の職員会議時に実施している、ボトムアップの不祥事防止研修でも近年発生した全国の不祥事事例を取り扱った新聞記事を紹介することもあり、その事例のどこが不適切だったのか、防ぐためにどのようにすればよいかを話し合ったあと、不祥事に対する処分について共通理解を図った。

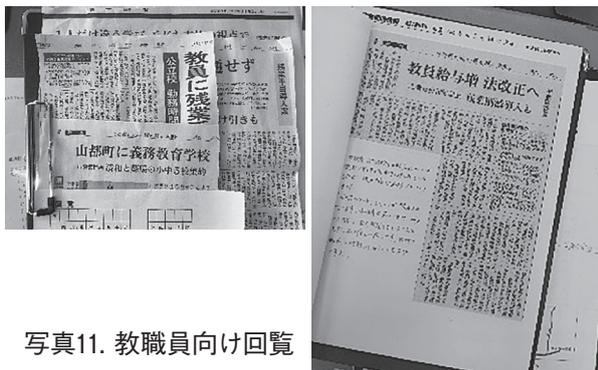


写真11. 教職員向け回覧

### 3. おわりに

高森町と本校の研究テーマである「自立した学習者の育成」に向けて、前年度に引き続いて実践を進めたが、自立した学習者に必要な3つの資質・能力を身に付けるために新聞を活用したのは効果的だった。特に3、4年生での実践においては、新聞社との連携を通して、取材の仕方、記事の書き方など、新聞作成に向けた総合的な活動を専門家に直接指導してもらったことで、2つ目の資質・能力にある「自ら学びを選択・活用する力」「他者と協働して課題を解決する力」を身に付けるために大変効果的だった。

2年間の研究は終了するが、今後も地元新聞社との連携を継続しながら、実践を積み重ね、「自立した学習者の育成」を図っていきたい。

# 「新聞」を通して世の中に関心を持ち、自分の見方・考え方を豊かにする取り組みの実践

熊本市立芳野中学校 職員一同

## 1 はじめに

本校は、熊本市西区に位置する在籍生徒42名、職員20名の小規模校である。本年度よりNIE実践指定校として、一年目は新聞に慣れ親しむことを目標に、各教科や学級活動、委員会活動でできることを行った。

## 2 具体的な取り組み

### (1)職員研修

#### ①講師を招く

全ての教職員がNIEについて理解して実践を進めるために、校内研修にNIE研修を位置づけた。県NIE推進協議会に協力いただき、NIEアドバイザーをお招きして、職員研修を行った。研修の中では、新聞を活用した教育実践の効果や数々の実践例を紹介していただいた。その中でも、特に教職員が新聞を活用した授業を『楽しみながら行う』ことが大切だと述べられていて、まずはできるところから新聞を用いた実践を進めていくきっかけとなった。

#### ②先進校への視察

NIEの具体的な取り組みを学ぶために、本校と同規模であり、NIEについて先進的な取り組みをされている佐賀県の嬉野市立吉田中学校へ視察に行った。そこでは教職員や子どもたちが無理なく新聞を活用した取り組みを行うために、カリキュラムを変更して時間を生み出していたり、校務分掌にNIE部会を位置づけて全職員を配置した組織的な活動を行ったりして持続可能な運営体系が構築されており、学ぶべき姿がたくさんあった。

### (2)新聞に親しむ環境の整備

#### ①新聞コーナーの設置

4月から2社の中高生新聞が、9月からは毎月3～4社の全国紙や地方紙の新聞が学校に届いた。多くの生徒が新聞に親しむことができるように、図書室だけでなく、各学年の廊下前の目に触れる場所に環境整備を行った。特に、廊下に設置している「NIEコーナー」には一週間分の新聞を並べ、生徒が自由に閲覧できるようにしている。

また、学校に届いて一カ月以上経過した新聞は「新聞アーカイブス」と呼ばれる箱に収納し、過去の新聞もさかのぼって読めるようにした。

「朝自習におけるNIE活動」や「各学級での1分間スピーチ」などでも、生徒は「NIEコーナー」で記事を読んだり選んだりしていた。



廊下に設置したNIEコーナー



図書室の新聞コーナー

(3) 朝自習での取り組み

① 視写

各教科の基礎となる「時間内に」「正確に」書き写す力を高めるために、朝自習の時間に15分間の視写の時間を設定した。生徒たちの心に響く内容・知っておいてほしい世の中の出来事などを選び、提示した。回数を重ねるごとに読むスピード、正確に書き写すスピードがアップした。

② 『いろいろなニュースを読んでみよう』

新聞コーナーから自分の気になる記事を見つけ、その記事の内容を5W1Hで簡単に要約し、自分の意見等を書かせる取り組みを行った。

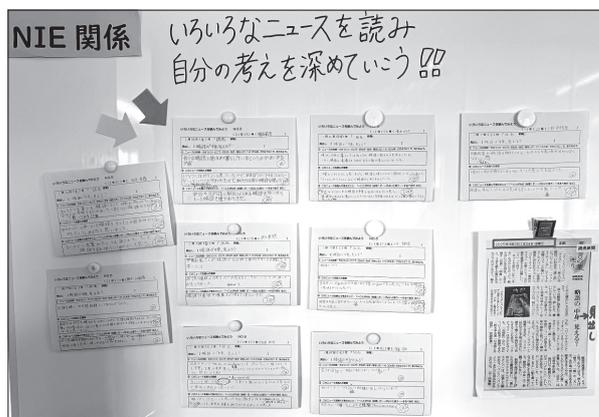
まずは、書き方を学ばせるために枠組みを設定し、意見の書き方の基本型を学ばせた（【資料1】）。



【資料1】意見の書き方の基本型を学ぶことができる枠組み

また、良い感想や意見を記述している生徒のワークシートをNIEコーナーで紹介し、模範を示したことで、当初よりも意見のまとめ方が

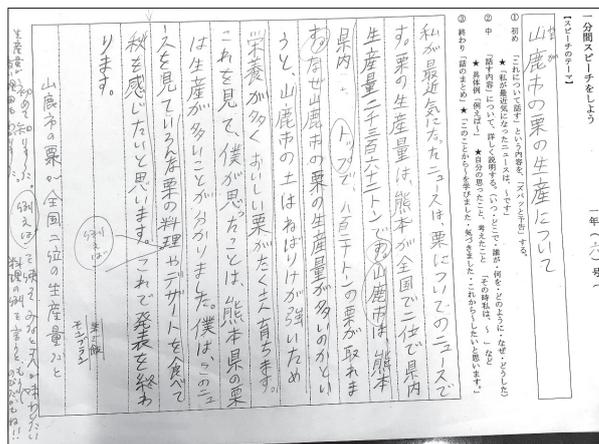
上達している生徒が増加した（【資料2】）。



【資料2】意見のまとめ方がうまくなっている生徒の実例

(4) 帰りの会での取り組み

自分が気になった記事を決め、その記事を読んで考えたことをタブレットや感想用紙にまとめ、1分間で発表する取り組みを全学年で行っている。回を重ねるごとに相手意識が働き、伝え方の工夫が見られる生徒も出てきた（【資料3】）。



【資料3】1年生の1分間スピーチ



タブレットを用いてスピーチ発表している  
2年生の様子



20240901朝日新聞

【資料4】生徒考案の予想問題

(5) 学級活動での取り組み

定期テストに向け、時事問題の予想問題を生徒たちに作成させた。NIEコーナーの新聞を見返したり、最新の記事から探したりなど、クラスメイトと意見交流を図りながら、できるだけ多くの問題を予想する生徒の姿が見られた(【資料4】)。



話し合いながら問題を予想する生徒たち

(6) 国語科での取り組み

光村図書の論説文にある人工知能(AI)との関わりを考える学習において、AIを取り巻く現状を知るためにAIに関する記事を探し、読む時間を設定した。その後、調べてわかったことや感想を発表して共有したことで、「これからAIとどのように関わっていけばよいのか、自分の考えを持とう」という課題意識を持って論説文を読んでいこうとする意欲を高めることができた(【資料5】)。



【資料5】国語科で用いたAIに関する記事探し



小泉氏出馬正式表明

最近ニュースでたくさん見かけるからです。新聞でも多くの新聞社が取り扱っていて最近の大きな話題だと思ったからです。

2024.09.07読賣新聞

(7) 社会科での取り組み

① 2年生地理的分野

関東地方の単元にて、東京都の人口過密問題について授業で扱っていた時期に、『東京一極集中』に関する記事が新聞に掲載されていた。

授業冒頭で紹介し、その後各自で意見文を簡潔に記述させた。既習内容が世の中の問題になっていることを再認識することができた生徒の記述が多くみられ、社会に関心を持つきっかけになったと感じた（【資料6】）。

**2年 社会** 2025.2.1 熊本の記事

『東京一極集中 再び進行』の記事を読んで考えたことをまとめよう！



中心を東京だけでなく、分散させたりしないと東京にだけ人が集まるだろうし、震災などで東京に被害があった時に一気に日本自体が危なくなりそうだったと思った。

熊本は人口が少ないのにもっと少なくなってしまう可能性があるのだから残ってもらうために施設開発や住宅地建設など新しい取り組みを考えた方が良さそう。(熊本に限らず人口が少ない地域も)

特に若い人が地方から東京へ移動している。このままだと、日本全体の人口密度のバランスが崩れ、地方の少子高齢化が深刻化していくと思う。東京に学校や職場が豊富なことからそうなっている場合もあるだろうから、東京以外にも若者の基準に合った教育施設や職場を増やしていくべきだと思う。

教科書にも関連!!!

【資料6】NIEコーナーに掲載した生徒の意見文

② 3年生公民的分野

学習指導要領における社会科の目標に「社会に関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、公民としての基礎的教養を培い、社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う」とある。世の中のことについて扱う公民的分野の入口として、新聞を活用して世の中の



3年生発表の様子

動きを知る取り組みを行った。その後、自分なりの意見をまとめ、クラスメイトの前で発表させた（【資料7】）。生徒の中には調べた記事について質問をしたり、感想を述べたりする生徒もいて、公民の導入として新聞は取り入れやすい教材になり得ると感じた。

「0歳児選挙権」というものが、日本維新の会によって唱えられており、話題になっているという記事を読んだ。これは、子どもに選挙権を与えた上で、親に代理で投票してもらうという制度だ。例えば、両親と子ども1人の家庭なら、子供の投票権を両親で0.5票ずつ分けて、投票してもらうことを想定しているというそう。こうした案が出てきた背景には、少子高齢化がある。子どもに選挙権を与え、若者の意見を政治にさせやすくすることが少子化を解消する一手になるのではないかと期待が寄せられているということだ。記事によると賛否両論あるようだが、私は反対よりの意見だ。確かに、少子化の中で若者の意見を反映するためにはやってみる価値はあるような気がするが、海外で導入が議論されたものの取り入れられていないということは、やはり問題点の方が多いということなのだと思う。それに、子どもの数で政治における力の差をつけていいのかがという点が疑問だ。その点に関する対策が出されるまでは、まだ実行に移さないでほしいものだ。



読売中高生新聞  
6月14日発行

【資料7】3年生の意見文

③ 全学年定期テストで時事問題の実施

定期テストに出題することで、日常的に新聞に触れる機会を設けた（【資料8】）。

新聞記事を読み、以下の問いに答えなさい。(2点)

**記事17**

輸入コスト増 「値上げラッシュ」続く見通し

国内で消費される多くの輸入品は、海外産品に依存している。日本では輸入品が不足し、国内産品も不足している。このため、輸入品は値上がりし、国内産品も値上がりしている。このため、物価は値上がりしている。このため、物価は値上がりしている。

**記事18**

環境相 訪れ謝罪

発言遮断 省全体の責任

首相不適切な対応だ

(読売中高生新聞 2024年5月24日掲載)

(毎日新聞 2024年5月9日掲載)

(1) 記事17から、現在、物価(物の価格)が上がっており、私たちが生きていく上での出費が増えるなど、日常生活にも影響を与え始めている。新聞記事17の口口に当てはまる語句(原因)を漢字2字で答えなさい。

(2) 記事18から、ある病の犠牲者追悼式で患者団体側の発言が環境省職員によって打ち切られるという問題が起った。記事18の口口にも当てはまる病とは何か。次のア～エから記号を一つ選び、答えなさい。

ア イタイタイ病    イ 四日市ぜんそく    ウ ハンセン病    エ 水俣病

【資料8】定期テストの時事問題

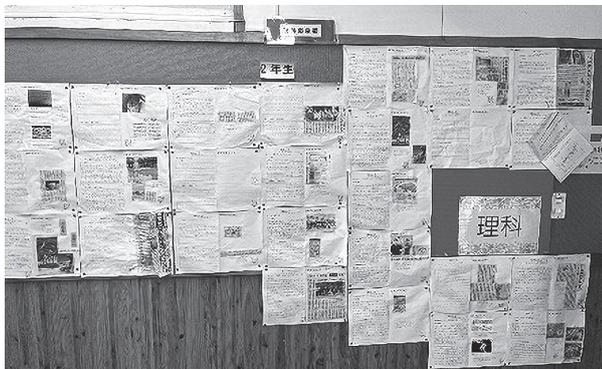
(8) 理科での取り組み

理科では主に①夏休みの新聞レポートの作成

②定期テストの時事問題の実施、の2点を行った。

①については、夏休みの長期休みを利用して、科学分野における自分が興味を持った新聞記事を読み、その記事から考えたことや感じたことをまとめさせた（【資料9】）。

②については、廊下にある「新聞コーナー」を生徒に定期的に見てほしいとの願いを込め、新聞コーナーにある記事や話題の中から、1～3年生の定期テストで1、2問出題した。



【資料9】理科の夏季課題

### (9)総合的な学習の時間での取り組み

芳野中学校の総合的な学習の時間の取り組みとして、1年生で地元について知る活動を、2年生では地元と他の地域との違いを知る活動を、そして3年生では地元の魅力を発信する活動を行い系統的な実践を進めている。

#### ①新聞づくりに向けた講話

本年度の3年生の活動の発信方法として、新聞を作成することにした。まずは新聞のレイアウトの仕方、見出しの付け方、記事の集め方等を学ぶために、県NIE推進協議会事務局から講師を招き、新聞講座を開いた。実際の新聞を用いた実践的な活動を通して、生徒たちは相手の目に留まるような、限られた語数での見出しの付け方等を考えることができるようになった。



講師の話聞く3年生の様子

#### ②ふるさと新聞づくり

講話を聞いた後、自分たちの地元である芳野の良さを伝える班、芳野の現状を伝える班、芳野のおすすめマップ作成班の3つのグループに分かれて、ふるさと新聞づくりに取り組んだ。インパクトのある見出しを考え、グラフや写真を効果的に用いたことで、読む人を引きつける新聞となった。完成した新聞は芳野校区の飲食店やまちづくりセンターに配布し、地域活性化のために役立てられた（【資料10】）。

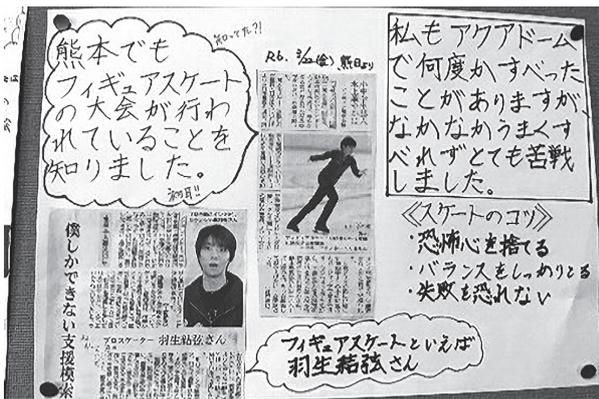


【資料10】3年生成成の「ふるさと新聞」

### (10)保健委員会での取り組み

#### ①生徒による健康に関する記事の取り上げ

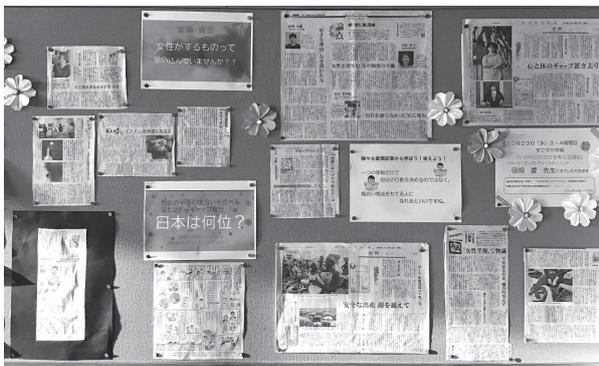
保健委員会内での話し合いで、生徒が芳野中の健康課題の一つに運動不足を挙げたため、まずは生徒が運動に親しみをもつために、スポーツに関する新聞記事を紹介することになった。生徒が気になる記事を探し、紹介コメントを書いて保健室前に掲示した（【資料11】）。



【資料11】保健委員作成の記事

#### ②ジェンダーに関する掲示物の作成

命の大切さを考える講演会前に、性に関することとして、ジェンダーギャップ指数や、さま



【資料12】ジェンダーに関する掲示物

ざまな性について考える記事を委員会で探し、いろいろな視点で物事を考えようと掲示した（【資料12】）。

#### ③健康に関する標語の作成

新年に向けて生徒全体に健康を呼びかけるにはどうしたらよいか、委員会で話し合った結果、標語にしようとなり、『あけましておめでとう』を用いた健康に関する標語を一人一つずつ考えさせた。併せてその標語に関連した新聞記事も探し、ただ掲示するより、新聞に少しでも親んでもらうために、めくってみてもらう工夫を図った（【資料13】）。



【資料13】健康に関する標語の掲示物

### 3 成果と課題

#### (1) 成果

新聞コーナーを設置しただけでなく活用を進めていったことで、日常的に新聞に触れる生徒が少しずつ増え、世の中に対する関心が高まった生徒が増えたことがわかった。

また、新聞を読んで意見文を書く取り組みをさまざまな教科で行ったことによって、見方・考え方が豊かになった生徒が増えてきたように思える。生徒の思考・判断・表現力を高める手段としても引き続き、連携を図りながら実践していく。

さらに、今回は委員会活動でも新聞記事を活用した掲示物の作成を定期的に行ったことで、記事の選択や、まとめ方、見出しの付け方など

に工夫がみられたことも一定の効果があったように感じた。

## (2) 課題

本年度実施した熊本市学力調査の意識調査によると、2年生の質問項目の中で、「社会で問題になっていることについてどうすればよいか、考えたことがあるか」の問いに対して、全国平均値56.6%と比べて本校は26%ほどにとどまり、大きく下回る結果となった。この結果を受けて、単に社会の現状を新聞から読み取るだけでなく、自分なりの解決策を持てるような掲示物の作成やワークシートの工夫等を取り入れていきたい。

また、実践指定を受けて一年目ということで、手探り状態で取り組んだところがあり、単発的な活動が多かったように思う。さらにNIEの取り組みが一部の教職員に限定され、組織的に取り組めなかったところが課題として挙げられる。先進校の視察からも、NIEの取り組みを持続可能なものにしていくためには、全職員を巻き込んだ組織づくりやカリキュラムの編成が不可欠であることを学んだ。

そこで2年目は、全学年が新聞に触れる時間の確保、各教科・委員会活動など実践する場の拡充、そして、全職員が役割分担する組織づくりに取り組んでいきたい。

そして、皆がワクワクする、さらにレベルアップしたNIE実践を進めていきたい。

# 新聞を活用して読解力、表現力を高める実践

五木村立五木中学校 職員一同

## 1 はじめに

県南部の川辺川の上流に位置し雄大な自然に囲まれた本校は、全校生徒14名の小規模校である。学校教育目標「故郷を愛し 豊かな心と確かな学力をもった たくましい五木っ子の育成 ～主体的に学び・考動し、よりよいコミュニケーションを図る五中生～」の実現に向けて、目指す生徒像を「相手を理解し、自分の考えを伝えることができる生徒」として定めている。校舎は県立人吉高等学校五木分校と隣接してつながっており、五木東小学校も近く、毎年5月には保小中高合同大運動会を実施している。

また、本校のグランドデザインでは、生徒に身に付けさせたい資質・能力を「主体性・多様性・表現力」と設定し、読解力・表現力の向上の手立ての一つにNIEを位置づけ、全教科・全領域で取り組みを進めている。

実践指定を受けて5年が経ち、本年度は熊本県NIE推進協議会の独自指定校となった。NIEのために地元紙1紙、中高生新聞2紙、一般紙5紙購読の予算を村に組んでいただき、生徒が新聞に親しむ環境の整備や、興味・関心をもった記事について語り合う時間を設定する取り組みを継続して進めてきた。「NIE隊」というボランティアを組織し、新聞閲覧コーナーの毎日の管理や、NIE講座・記事について話し合う時間の運営などを担当している。

前年度は、九州地区へき地・小規模校教育研究大会熊本県大会において、全校生徒がそれぞれ制作した新聞をもとにした「記事トーク」を行い、ふるさと五木村のこれからを考える授業を公開した。生徒たちは、「教育」「観光」「福祉」「産業」などの観点について、一般紙からの情報も、村の活性化につながるアイデアとして話

し合った。また、その授業について、NIE事務局の担当者に講評をしてもらった【写真1】。

これまでの実践で、生徒たちは新聞に親しみ、情報について相手に伝える力が身に付いてきた。これまでの取り組みを継続しながら活動内容を改善・発展させ、さらに生徒の読解力、表現力を高めるための実践の工夫に取り組んだ。

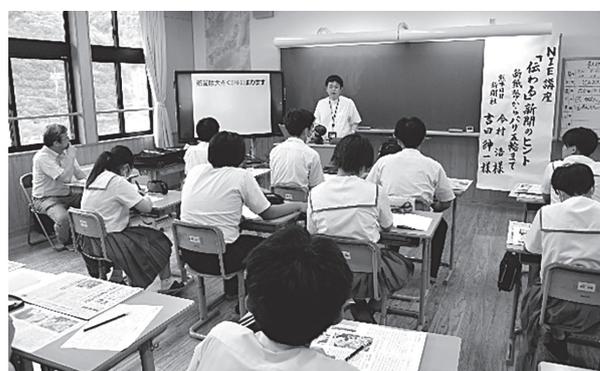


【写真1】九へき研大会での授業の様子

## 2 具体的な取り組みについて

### (1) NIE講座

NIE事務局に2回の出前講座をお願いした。第1回講座の前半に、新聞の構成、リード文の内容や見出しの付け方、記事に書くべき内容などについて講話をもらった【写真2】。



【写真2】NIE講座の様子

時事に応じた、新紙幣の発行やパリ五輪の記事

について、全国紙と地方紙を比較して読み込み、焦点の当て方の違いを学んだ。また、記事の要点を簡潔に表す見出しを考える活動は、記事の内容を読み込み要約するという、読解力向上への手立てのヒントとなった【写真3】。講座後半では、あらかじめ制作してデータで送付していた保小中高合同大運動会や焼畑体験学習に関する記事について、個別指導を受けた。新聞の記事の解説は、生徒が新聞制作を行う上でも大変参考となる内容であった。



【写真3】見出しの付け方についての指導

## (2) 体験学習と新聞制作

生徒自身が行事等に参加し体験する中で感じたことを、一人A3版1枚の新聞にまとめた。この活動を通して、目標とする表現力の向上を目指した。

本校では、ふるさと五木村の地域性を活用した学校行事の取り組みが盛んである。

2学期の取り組みとして、第1学年は地域の魅力を発見するふるさと体験学習、第2学年は職業について学ぶ職場体験学習、第3学年はインクルーシブについて学ぶ福祉体験学習を実施した。このほかに、火入れ・種まき・収穫・脱穀などの焼畑体験学習、租税教育や中学生議会などの主権者教育を全校で行った。

これらの体験学習の成果を一人ずつ新聞形式にまとめ、NIE講座後半で、個別に指導を受

けた。2回目の講座も事前に新聞のデータを送っておき、記事の構成や見出しの付け方などプロの視点で一人一人にアドバイスをもらった【写真4】。レイアウトの改善や見出しの付け方など、要点を絞った助言になったことで、生徒たちも改善すべき視点を明確にしてスムーズに



【写真4】NIE講座での新聞制作の個別指導

作業を進めることができた。このようにして完成した新聞【写真5】は、文化祭での発表と共に、熊日「新聞コンクール」などにも出品した。

それぞれの学年の体験学習を終え、第1回NIE講座での学びを生かして新聞制作に取り組んだ。制作ではMicrosoft Power Pointアプリを活用し、記事に必要な写真等はMicrosoft Teamsアプリ内で共有し、作業の進捗状況を確認できるようにした。生徒たちは、家での時間でも編集や記事の訂正を行うため、投稿機能を使い変更をリアルタイムで知らせたり、必要なデータを求めたりした。このようにTeamsアプリの機能を活用したことで、新聞作りがスムーズに進められた。

読み手にわかりやすく伝わる内容にしたいということを念頭において新聞制作に取り組んだことで、情報を要約し相手に適切に伝える表現力の向上につながったと考える。この取り組みで生徒たちは新聞作りの魅力や達成感を味わうことができた。



【写真5】体験学習新聞

### (3)「記事トーク」の取り組みの工夫

本校では、「新聞閲覧コーナー」を設置し、生徒が自由に新聞を手にとって親しむことができる環境を整えている。全校生徒で行う「記事トーク」は、学年縦割りの3人5班で構成され、各自が事前に準備したスクラップノートを持ち寄り、それぞれの記事を紹介し合って意見交流する活動である【写真6】。限られた時間の中で、



【写真6】記事トークの様子

相手に記事を正確に紹介し自分の考えを伝えるには、記事の中の膨大な情報を要約する読解力と、それをわかりやすく相手に伝える表現力が必要である。また、聞き手には意見を交流するために相手が何を伝えたいかを集中して捉えようとする姿勢が自然と身に付いてきた。このように「記事トーク」を継続して取り組んだことで、本校が目指す読解力・表現力の向上につながっている。

職員室前廊下に設置してある新聞閲覧台には、常に新聞各社の紙面が広げられており、生徒たちは休み時間等に気軽に新聞に目を通すことができる【写真7】。本年度は、「記事チェック」として、定期的に記事を見つける時間を確保した。さらに、「記事チェック」の時間にテーマを設けるなどして、より焦点化した記事探しにつなげてきた。



【写真7】新聞を閲覧している生徒の様子

新聞閲覧台の近くには、生徒が自由に使用できるコピー機が設置されており、気になる記事を残す場合は、このコピー機を使用して印刷した記事を各自スクラップノートに貼付するようにしている。

生徒一人一人が所有するスクラップノートには、切り取られた記事が蓄積されている。貼付された記事と一緒に、記事の要約や感想等がまとめられている【写真8】。「記事トーク」では、このスクラップノートを用いて意見交流を進め

た。本校では、継続してNIE活動を進めることができるよう、基本日課を見直し、全校生徒で「記事トーク」を行う時間を毎週1回程度確保している。ボランティア「NIE隊」のメンバーが「記事トーク」の準備や司会など運営を担当している。また、この記事トークによって、グループワークがスムーズにでき、人前での発表にも慣れてきた。



【写真8】スクラップノートの例

(4) NIEワークシートの活用

毎週火曜日の朝自習に、新聞記事を活用した「NIEワークシート」の取り組みを進めている。NIEワークシートでは、記事の感想を書いたり記事の内容に関する問題を解いたり関連した記事を探したりする活動を通して、読解力の向上を目指した。NIEワークシートは、年間計画を立て、全職員が輪番制で準備した【写真9】。これによって、各教科の特色や、各人

の興味・関心を生かした記事やさまざまな分野の記事にふれることにつながり、生徒がより多面的・多角的な視点から物事を考え議論するきっかけになったと考える。また、社会的な話題や生徒の関心が高い記事、五木村と関係の深いダムに関する記事などは、先述した記事トークで、全校生徒統一のテーマについての意見の交流を行った。このように、NIEワークシートと記事トークのつながりを意識した取り組みを目指した。



【写真9】NIEワークシートの一例

(5) 週末視写

600字程度の新聞コラムの視写とその文章中の漢字の読みや内容に関する問題についてA3プリントにしたものを毎週末の課題として取り組んだ。視写の内容が記事トークの話題につながることもあった。

### 3 成果と課題

#### (1) 成果

- これまでの5年間の実践を通してNIE活動は定着している。日常的に新聞を閲覧できる環境整備のためのNIE隊の役割と活動内容がスムーズに後輩に引き継がれるなど、学校の中で新聞に親しむ土壌が確立されてきた。
- NIEの実践を本校のランドデザインに位置づけ、年間を通じてNIE活動の時間確保ができた。
- NIE事務局と密接に連携して、これまで毎年2回のNIE講座を実施してきた。専門的な視点から見出しやリード文をはじめ新聞の構成等について学習を深めることができた。また、初めてNIEに取り組む1年生と、新聞づくりの経験がある2・3年生に分けた講義にしたことで、生徒の実態に応じて段階的に個に応じた新聞の制作を学ぶことができた。
- 体験学習を新聞にまとめる活動を通して、生徒が情報と学びを整理し、アドバイスを生かして成果をわかりやすく読み手に伝える実践を積むことができた。また、Microsoft Power PointアプリやMicrosoft Teamsアプリを活用したことで、ICT機器を活用して効率よく合理的に情報収集や編集を進めることができ、生徒の意欲にもつながった。
- 記事トークの意見交流では、相手の意見について自分の考えを述べたり、さらに内容を深める質問をしたりすることもあった。少人数のため、グループ内での進行や全体での発表にも1年生が出て、アドバイスを受けながら経験することができた。グループの意見を全体交流する際、以前は意見を羅列して紹介することが多かったが、テーマを絞ることで議論しやすくなったようだ。ホワイトボードを用いて、発言が得意でない生徒も記事を要約

してわかりやすく相手に伝えるため、読解力や表現力の向上につながったと考える。

- 全職員がNIEワークシートを準備したことや、新聞コラムの視写によって、各教科の特色を生かした記事やさまざまな分野の記事にふれることにつながり、生徒の視野を多面的に広げて物事を捉え、議論するきっかけにつながった。

#### (2) 課題

- 本校のランドデザインによって示された身に付けたい「主体性・多様性・表現力」を達成するためのNIEを通した具体的手立てや方向性について、職員の異動が多かったこともあり、年度当初に明確化し、全職員で共有する必要があったが不十分であったため、深まりが足りなかった。
- 情報の要約や相手意識をもった表現力は向上してきたと考えられるが、新聞制作における情報活用能力や調べたこと、体験したことを表現する文章作成能力にはやや課題が見られる。各教科との連携がさらに必要である。
- 全体での発表については、ディベート形式を取り入れるなど、試行錯誤して新たに工夫することによって、さらなる深化が見られると思われる。

### 4 最後に

ふるさと五木村での体験や学びを、生徒たちの自信や誇りへとつなげることができるようNIEの取り組みを進めてきた。今後も、多様な考えに触れ相手を理解する読解力や、自分の考えを伝える表現力を育成するNIE活動に取り組んでいきたい。小規模校である本校を卒業した後も、主体的にたくましく生きる力を育てることができるよう、これまでの実績を大切にしながら活動を続けていきたい。



○第1学年アンケート（回答41人）

- ・あなたは新聞を読みますか  
読む1人 時々読む5人  
読まない35人
- ・いつ読みますか  
家3人
- ・読まない理由は何ですか（上位3つ）  
取っていない17人  
文章が長い、小さい5人  
テレビ、スマホがある5人
- ・どんな記事を読みますか（上位3つ）  
ニュース記事3人 番組表2人  
スポーツ1人
- ・読む、時々読むことは何に役立っていますか（上位3つ）  
社会の出来事理解4人  
情報収集4人 テレビ番組3人

○第2学年アンケート（回答34人）

- ・あなたは新聞を読みますか  
読む0人 時々読む9人  
読まない25人
- ・いつ読みますか  
家6人 学校2人  
祖母の家1人
- ・読まない理由は何ですか（上位3つ）  
取っていない10人  
ネットで見る6人 時間がない5人
- ・どんな記事を読みますか（上位3つ）  
気になっているニュース4人  
世の中の出来事2人  
四コマ漫画2人
- ・読む、時々読むことは何に役立っていますか（上位3つ）  
社会の出来事理解7人  
情報収集4人 テレビ番組3人

○第3学年アンケート（回答31人）

- ・あなたは新聞を読みますか  
読む0人 時々読む9人  
読まない22人
- ・いつ読みますか  
家4人 祖母の家1人
- ・読まない理由は何ですか（上位3つ）  
テレビ、スマホがある8人  
取っていない6人  
興味がない4人
- ・どんな記事を読みますか（上位3つ）  
政治3人 漫画3人  
スポーツ2人
- ・読む、時々読むことは何に役立っていますか（上位3つ）  
社会の出来事理解5人  
情報収集5人 受験勉強3人

◎アンケート結果から見えてきたもの

「若者の活字離れ」ということを耳にするようになって久しく経つが、  
(1)新聞を「読む、時々読む」という実態がほとんどない。  
(2)「インターネット」（スマートフォン）からの情報収集が当たり前となっている。  
(3)3年生では、受験のために新聞を活用すると考えている。  
このようなことから、ますます新聞を読む機会が減り、読解力・考察力・語彙力・表現力などを学ぶ機会や、見聞を広げる力が衰退してしまうことが懸念される。

3 実践事例

※授業実践（国語科との連携）

普通科2年 「進学・グローバルコース」

進学・グローバルコースは、全員が進学を希







写真⑨-2

②成果と課題

国語の授業の際に、導入部分で「最近気になったこと」ということで、新聞を活用した問い掛けを毎回行っている。

- ・ 社会の出来事を理解する
- ・ 話題を共有する
- ・ 言葉の理解と意味の確認

を行うことで、いろいろと知識を増やし「小論文」へとつなげることを目的にしている。

アンケートの結果でもわかるように、ほとんど新聞を読まない生徒が多い中で、新聞から得られる情報・知識をもとにいろいろな視点から取り組むことにはつながっていくと感じる。他教科においても、学習の際の言葉・漢字の理解とまとめる力、そして発表する際の構成力にも役立つと考える。また、選択した記事に対してまとめる際にも、活字に触れることで言葉を自分のものとして活用してまとめる力が養われて

いる。そして「小論文」の構成・作成にも大きく関係していくと考える。

しかし、課題としては普段新聞を読まない(家庭でも購読されていない)生徒が多いために、一過性で終わるのではなく、継続的に新聞を読む習慣と見聞を広げる取り組みが必要である。

4 おわりに

ほとんどの生徒が、新聞に触れる機会がなく、活字(本も含め)に触れる機会も減っている。そして、情報は「インターネット・テレビ・SNS」にとって代わられている。また、文章作成にしても「生成AI」が身近になっている昨今、自ら考える機会がますます減っていく中で、新聞活用の大切さを再認識することができた。

今後の学びの中で、「新聞」という媒体を通して生徒の知識・見聞を広げていきたい。

---

## 2024(令和6)年度 熊本県NIE実践報告書

編集・発行 熊本県NIE推進協議会

事務局 熊本日日新聞社 販売局 NIE・NIB戦略室

〒860-8506 熊本市中央区世安1-5-1

TEL 096(361)3159 FAX 096(366)1715

Mail [nie-s@kumanichi.co.jp](mailto:nie-s@kumanichi.co.jp)

---